

平成29年度大学リーグやまぐち主催事業・事業報告書

事項	県内進学への促進（担当：山口県 県内進学・仕事魅力発信協議会）			
事業名称	「2017山口県オープンキャンパスマップ」及び「2018山口県県内進学ガイドブック」の作成・配布			
主催	山口県 県内進学・仕事魅力発信協議会			
担当者 [連絡先]	（所属・職名） 県学事文書課 大学班 主査		（氏名）角 昌尚	
	083-933-2140		(E-mail: a10400@pref.yamaguchi.lg.jp)	
共催・後援等 （協力体制）	構成団体：県私立大学協会、県専修学校各種学校協会、大学リーグやまぐち、県学事文書課、県高校教育課			
事業の趣旨 ・目的等	若者の県内定着を促進するため、県内高校生の県内大学や専門学校等への進学促進に資する取組を推進する。			
事業の内容	<p>1 2017山口県オープンキャンパスマップの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：県内大学、専門学校等のオープンキャンパス情報が掲載されたマップの作成・配布 ・部数：16,000部（各公私立高校等に配布） ・時期：平成29年6月上旬 <p>2 2018山口県県内進学ガイドブックの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：県内大学、専門学校等の概要、魅力等を紹介する冊子の作成・配布 ・部数：16,000部（各公私立高校等に配布） ・時期：平成30年2月中旬 			
事業実施のための 必要経費	経費項目（積算内訳含む）	員数	単価	金額
	山口県 県内進学・仕事魅力発信協議会負担金	18	12,000	216,000
	計			216,000
実施結果	<p>当該事業については、「山口県 県内進学・仕事魅力発信協議会」において実施し、構成団体がそれぞれ負担金を支出。</p> <p>「2017山口県オープンキャンパスマップ」については平成29年6月1日付で、「2018山口県県内進学ガイドブック」については平成30年2月15日付で、各公私立高校等に配布した。</p> <p>その他、JR山口駅構内、JR徳山駅構内、シーモール下関、ルルサス防府に設置しているインフォメーションスタンドを活用し、広報活動を行った。</p>			
				

平成29年度大学リーグやまぐち主催事業・事業報告書

事項	県内大学等の魅力発信 (担当：県学事文書課)			
事業名称	SNSによる県内大学等の魅力発信			
主催	大学リーグやまぐち (担当：県学事文書課)			
担当者	(所属・職名) 県学事文書課 大学班 主査		(氏名) 角 昌尚	
[連絡先]	083-933-2140		(E-mail: a10400@pref.yamaguchi.lg.jp)	
共催・後援等 (協力体制)	—			
事業の趣旨 ・目的等	若者の県内進学等を促進するため、県内高校生に対して、SNS等を通じて、県内大学や県内企業等の魅力を発信する。			
事業の内容	<p>原則、県内大学の持ち回り(毎週月曜日に1大学掲載)により、学生のキャンパスライフ(学食、学祭、一押しポイント、学生の悩み等)や県内企業の魅力を紹介する。また、学祭等の情報は、随時、紹介する。</p> <p>① ツイッター 「ツイート」と称される140文字以内の短文の投稿</p> <p>② インスタグラム 無料の画像共有ソフト。デジタル画像を撮影、編集し、インスタグラム等SNSで共有</p> <p>③ LINE@ プッシュ通知や自動返信が可能(月々5,400円必要(友達上限5千人))</p> <p>④ フェイスブック 豊富なアプリケーションや情報共有機能を備えたSNS</p>			
事業実施のための 必要経費	経費項目(積算内訳含む)	員数	単価	金額
	LINEへの支払い			0
	計			0
実施結果	<p>各構成機関でのイベントや取組、ムーブマン・ネオの収録などをSNSで紹介する一方、当該取組について、各公私立高校等に対して文書等で周知を行った結果、広報ツールとしての一定の成果は見られた。</p> <p>開設して1年が経過したが、更に認知度を高める必要があることから、今後、PRの方法等について検討を進める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;">     <div style="text-align: center;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">大学リーグ やまぐち</p>  </div> </div>			

平成29年度大学リーグやまぐち主催事業・事業報告書

事項	F D			
事業名称	F D 研修会（全学 F D ・ S D 講演会）			
主催	山口大学大学教育機構			
担当者	（所属・職名）教育支援課教育企画係長		（氏名）野村 治宣	
[連絡先]	(TEL : 083-933-5150) (FAX : 083-933-5225)		(E-mail : ga115@yamaguchi-u.ac.jp)	
共催・後援等 （協力体制）	大学リーグやまぐち			
事業の趣旨 ・目的等	<p>本年度の全学FD・SD講演会では、大学教育の中でアクティブ・ラーニングが広がっていく中で学生の学修活動や学修成果をどのように評価（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価）するか、また、教員のファシリテーションはどのように行うべきか、学生参加型授業でとかく問題となるグループ間学修達成度の格差やフリーライダー問題、コミュニケーション障害が疑われる学生への対応といった種々の課題に対して具体的にどのように対応するのかについて学内外の有識者から意見を聞く。このため、学外の大学の講師を招聘するとともに、学内の関係教員にも加わっていただき、講演やパネルディスカッションを通して解決策や改善策を探る。これにより、「山口と世界」をはじめとする各学部・学科で行われているアクティブラーニングの指導方法や成績方法等について考える。</p>			
事業の内容	<p>講演テーマ：「アクティブラーニングにおける諸問題の解決方法を探るーパフォーマンス評価、ディープ・アクティブラーニング、教員のファシリテーション、フリーライダー問題、コミュニケーション障害問題に対していかに対応するかー」 講師：関西大学教育推進部教育開発支援センター 森 朋子 教授 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 中井 俊樹 教授 日時：平成29年8月9日（水） 13：30～16：30</p>			
事業実施のための 必要経費	経費項目（積算内訳含む）	員数	単価	金額
	講師謝金（愛媛大学 中井俊樹教授）	1		13,125
	講師旅費（愛媛大学 中井俊樹教授）	1		27,510
	計			40,635
実施結果	<p>講演会は2部構成で行われた。第1部ではアクティブ・ラーニング（以下、AL）が大学教育の中に広がっていく中で、これまでの成果と課題を論点整理するために2名の外部講師を招聘してそれぞれの立場で現状を分析いただいた。関西大学教育推進部教育開発支援センターの森朋子教授からは「アクティブ・ラーニングからディープ・アクティブラーニングへ」というテーマで、「活動はアクティブであるが思考は本当にアクティブになっているのか」、「教員だけがアクティブになっているのではないか」などの現状のALを巡る種々の課題について重要な問題提起がなされた。愛媛大学教育企画室の中井俊樹教授からは、「アクティブ・ラーニングを促す教員のファシリテーション」というテーマで、温かい学習環境の整備としてのルール作りの必要性とともに、教員の「発問法」の重要性について事例を交えた詳しい説明があった。</p> <p>第2部では、星野晋山口大学国際総合科学部准教授から最初に国際総合科学部におけるALの現状と課題について報告があった。その後、パネルディスカッションを行い、講演や星野准教授が報告した課題等に対し、どのような解決策があるかを4名のパネリストが協議した。この中でALをディープなALに深化させる方法として、教員のファシリテートの重要性や、時にはALの中で担当教員がアカデミックな知見から講義を実施し、学生の思考を深める必要があるといったヒントが示された。また、発達障害や精神障害の疑いのある学生は、人とのコミュニケーションを苦手とする傾向があり、必要に応じて特別授業の開講やレポート提出で代替する等の合理的配慮が必要であることが示された。</p> <p>講演会後のアンケート結果では、「非常に良かった」および「良かった」を合わせて93.6%（昨年度76.1%）であり、ここ3年間の中で最も参加者の満足度が高かった。大学リーグやまぐちからの支援により、このような有意義な講演会を開催することができ、この場を借りて感謝申しあげたい。</p> <p>参加総数71名（内訳：山口大学60名（吉田地区38名、小串地区19名、常盤地区3名）、山口学芸大学6名、東亜大学2名、徳山高専3名</p>			

平成29年度大学リーグやまぐち主催事業・事業報告書

事項	S D			
事業名称	大学マネジメントセミナー2017 in やまぐち			
主催	大学リーグやまぐち、国立大学法人山口大学			
担当者	(所属・職名) 山口大学大学教育機構・准教授 (氏名) 林 透			
[連絡先]	(Tel: 083-933-5067)		(E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp)	
共催・後援等 (協力体制)	共催: 大学マネジメント研究会, 大学行政管理学会中国・四国地区研究会			
事業の趣旨 ・目的等	<p>2013年度から実施する山口大学・大学リーグやまぐちSDセミナーは4年続けて盛況であり、山口大学及び山口地域の大学等から毎年度100名を超える参加がある。SDセミナー参加者や大学リーグやまぐち加盟機関からは、大学間連携を通じたSDセミナーを継続的に開催する要望が多数寄せられている。このようなニーズを踏まえながら、2017年度において、更なる充実を図りながら、大学マネジメントセミナー2017 in やまぐちを企画実施する。</p> <p>2017年度においては、2016年度に新しく結成された大学リーグやまぐち加盟機関の相互交流を図ることを目的に、当該地域の高等教育機関が抱える諸課題を共有し、課題解決のための新たな方策や気付きを得る場づくりに努めたい。大学間連携に経験豊富な専門家を招へいた基調講演を行うほか、大学リーグやまぐち加盟機関によるポスター発表等を通して、各大学共通のテーマやノウハウの共有を図りながら、大学職員の人的ネットワークの充実を図りたい。</p>			
事業の内容	<p>テーマ: 「今、改めて考える“教職協働” ～地方大学の魅力発信と大学間連携～」</p> <p>内容: (1) 大学リーグやまぐち加盟機関によるポスターツアー ポスターテーマ「うちの大学・短大の教職協働を紹介します！」</p> <p>(2) 基調講演 ①「東の山大でプレイフル! ～職種と組織を超えた協働が日本を救う～」 国立大学法人山形大学米沢キャンパス事務部研究支援課・副課長 樋口浩朗 氏 ②「教職協働による地域に信頼される大学づくり」 学校法人文理学園日本文理学部工学部教授・学長室長 吉村充功 氏</p> <p>(3) ポスター発表&ディスカッション</p> <p>日 時: 平成29年12月18日(月) 14:00～17:00</p>			
事業実施のための 必要経費	経費項目(積算内訳含む)	員数	単価	金額
	講師謝金(吉村充功 氏)	1		19,750
	講師旅費(樋口浩朗 氏、吉村充功 氏)	2		110,460
	消耗品	1		7,718
	計			137,928
実施結果	<p>参加者: 101名(うち学外33名) <内訳> 山口大学68名、山口県立大学2名、下関市立大学2名、徳山大学3名、山口学芸大学・芸術短期大学3名、宇部フロンティア大学・短期大学部2名、梅光学院大学2名、東亜大学1名、山口東京理科大学2名、至誠館大学1名、下関短期大学1名、岩国短期大学1名、水産大学校2名、山口県庁1名、その他県外大学関係者10名</p> <p>2017年12月18日(月)に、大学リーグやまぐち・山口大学主催 大学マネジメントセミナー2017 in やまぐち『今、改めて考える“教職協働”～地方大学の魅力発信と大学間連携～』は、県内外の大学関係者を約100名集め、吉田キャンパスにて開催された。本セミナーは、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)における教学マネジメント強化のための研修の一環として実施された。</p> <p>冒頭、岡 正朗 山口大学長より開会挨拶があった後、職員・教員の立場から基調講演が行われた。まず、樋口浩朗 山形大学米沢キャンパス事務部研究支援課・副課長より、「東の山大でプレイフル!～職種と組織を超えた協働が日本を救う～」と題して講演があった。近年の山形大学における外部資金獲得の伸び率が2年連続1位や米沢キャンパスにある工学部での研究活動の躍進などの紹介があった後、樋口氏自身が大学職員として取り組んできた取組について説明があった。職員仲間同士での危機意識から、山形大学アクションプランの提起や基本理念の策定に参画するなど、大学執行部や大学教員と協働した成果を挙げ、そのほか、東日本大震災後の復興支援プロジェクト、若手職員育成を視野に入れた大学経営塾の企画など幅広い活動について説明があった。</p> <p>次に、吉村充功 日本文理学部工学部教授・学長室長より、「教職協働による地域に信頼される大学づくり」と題して講演があった。18歳人口減が始まる大分県において、入学人数のV字回復を遂げた成果を取り上げながら、地元県内から選ばれる大学を目指して、教育理念の再編を図りながら、人間力育成に重点を置いた教育改革を、教職協働により時間をかけて進めてきた経緯について説明があった。第2期中長期施策や文部科学省COC事業が起爆剤となって、地域に学生があふれ出すことで、大学への信頼感が向上し、学生の成長も数値になって表れてきていることを説明された。</p> <p>後半では、展示ロビーにおいて開催されたポスター発表において、発表者と参加者との対話に話が弾んでいるようであった。今回のポスター発表では、大学リーグやまぐち加盟機関すべてからポスター展示があり、県内初の高等教育機関同士のポスター発表は有意義なものとなった。その後のディスカッションでは、林 透 大学教育センター准教授の全体進行のもと、ポスター発表での気づき・感想・意見について「教職協働」「地方大学の魅力発見」「大学間連携」という三つのキーワードに絡ませながら、グループ対話を行った。</p> <p>クロージングでは、ポスター発表の表彰式があり、「最優秀ポスター賞: 徳山大学「徳山大学ダブルアドバイザー制度について」」「樋口賞: 山口県「大学リーグやまぐち」の取組」「吉村賞: 梅光学院大学「教職協働による学生支援(海外研修編)」」がそれぞれ受賞した。</p> <p>最後に、田中和広 山口大学理事・副学長より閉会挨拶があり、学内外の大学関係者が交流する素晴らしい機会となり、今後もこのような場づくりを行っていくこととした。</p>			

平成29年度大学リーグやまぐち主催事業・事業報告書

事項	図書館連携			
事業名称	山口県大学ML（ミュージアム・ライブラリー）連携特別展			
主催	山口県大学ML連携事業事務局（担当：山口大学）			
担当者	（所属・職名） 山口大学大学情報機構埋蔵文化財資料館 助教 （氏名）横山 成己			
[連絡先]	（所属・職名） 山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 副課長 （氏名）永久 英雄 083-933-5192、5035 (E-mail: li322@yamaguchi-u.ac.jp)			
共催・後援等 （協力体制）	共催：山口県立山口博物館、大学リーグやまぐち、山口県大学図書館協議会 後援：山口県博物館協会、大学博物館等協議会、山口県図書館協会			
事業の趣旨 ・目的等	<p>山口県大学ML（ミュージアム・ライブラリー）連携事業は、平成23年度から継続して実施している。この事業は、県内各大学が所蔵する学術資料や研究成果を素材とした展示活動を実施することにより、大学のブランディング及び地域への大学の説明責任の一端を果たすもので、大学連携並びに地域貢献事業として位置付けている。</p> <p>開始当初は2大学の事業であったが、平成25年度からは大学コンソーシアムやまぐち加盟大学を中心に参加を呼びかけ、毎年度一定のテーマを定めて特別展を実施している。平成28年度には12大学17館の大学博物館・図書館が参加するまでに至ったが、これは事業の継続性が確立し、大学ばかりでなく地域社会に定着したことが要因として考えられる。</p> <p>山口県内大学の博物館・図書館等に所蔵される学術資料、研究成果や大学史等は、各大学の教育・研究理念を反映したものであり、地域の文化遺産とも言える。これらを同時に公開することによって、観覧者は当県の高等教育機関の特色を理解することになり、地域活性化につながる。</p>			
事業の内容	<p>平成29年度山口県大学ML連携事業では、現行体制となり5周年を迎えることや、さらなる参加大学の拡大を図ること、全国でも稀有な当活動をさらに県内外に周知させること等を考慮し、山口県立山口博物館に会場を提供してもらい、初の県内大学所蔵学術資料集合展示を実施する。</p> <p>具体には、共通テーマを「やまぐちの大学 -University College Yamaguchi-」とし、各大学の教育研究を象徴する学術資料や研究成果を公開する。開催期間を平成29年11月25日～12月24日の約1週間とし、会期中にシンポジウムを山口県立山口図書館で開催する。</p>			
事業実施のための 必要経費	経費項目（積算内訳含む）	員数	単価	金額
	ポスター作成費	380	108	41,040
	パンフレット作成費	2,500	34.384	85,960
	会場借り上げ代（山口県立山口図書館）			13,025
	山口県立山口博物館看板作成費			56,160
	実施報告書等作成費			72,815
	通信費（ポスター・実施報告書等郵送料等）			11,680
	講師等旅費・謝金			43,660
	消耗品費等（事務局経費）			45,660
	計			370,000
	（うち大学リーグやまぐち負担分）			127,000
実施結果	<p>山口県立山口博物館で、平成29年11月25日から12月24日の期間、共通テーマを「やまぐちの大学 -University College Yamaguchi-」とし、山口県内の13大学17館の参加による学術資料展示開催を実施した。なお、当該スペースへの入館者数は約600名あった。</p> <p>併せて、会期中の12月10日に山口県立山口図書館レクチャールームにおいて、山口県大学ML連携事業シンポジウム「あなたの街の大学博物館・図書館～目的と役割、現状と未来～」を開催し、本事業の経緯、基調講演、各館からの事例報告、意見交換等を実施し、一般市民を含んだ42名の参加があった。</p> <p>また、本事業は、文化庁の「平成29年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）」に申請し、補助対象事業になった。</p>			